

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡市中央区桜坂3丁目計画	階数	地上18F、地下5F
建設地	福岡県福岡市中央区桜坂三丁目28	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第1種住居地域、第7地域	平均居住人員	1,110 人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年10月 予定	評価の実施日	2015年10月9日
敷地面積	12,708 m ²	作成者	三井住友建設㈱
建築面積	3,039 m ²	確認日	—
延床面積	35,141 m ²	確認者	—



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他						
断熱等性能等級4の取得、潜熱回収型給湯器・LED照明の採用、敷地南側の自然林を保全するのによりトータルで環境負荷の少ない建物を計画する。							
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> Q1 室内環境 断熱等性能等級4相当とし、熱的環境に配慮している。内装建材にF☆☆☆☆を採用し室内空気環境に配慮している。 </td> <td style="width: 33%;"> Q2 サービス性能 躯体は劣化対策等級3相当とし、耐用年数の長い設備配管材を採用するなど、建物の長寿命化に配慮している。 </td> <td style="width: 33%;"> Q3 室外環境(敷地内) 敷地南側の自然林を保全、多くの緑地および中高木を設けることにより、良好な緑地環境を創出している。景観についても十分配慮した計画としている。 </td> </tr> <tr> <td> LR1 エネルギー 建物の断熱等性能等級4相当とし、熱的負荷抑制に配慮している。 潜熱回収型給湯器・LED照明器具を採用し、省エネルギーに配慮している。 </td> <td> LR2 資源・マテリアル 内装を乾式工法とし、PS・天井内・床コログシ配管により設備との錯綜を回避することで、部材の再利用の可能性を高めている。 </td> <td> LR3 敷地外環境 LCCO₂の排出率を参照値より抑制している。 </td> </tr> </table>	Q1 室内環境 断熱等性能等級4相当とし、熱的環境に配慮している。内装建材にF☆☆☆☆を採用し室内空気環境に配慮している。	Q2 サービス性能 躯体は劣化対策等級3相当とし、耐用年数の長い設備配管材を採用するなど、建物の長寿命化に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地南側の自然林を保全、多くの緑地および中高木を設けることにより、良好な緑地環境を創出している。景観についても十分配慮した計画としている。	LR1 エネルギー 建物の断熱等性能等級4相当とし、熱的負荷抑制に配慮している。 潜熱回収型給湯器・LED照明器具を採用し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 内装を乾式工法とし、PS・天井内・床コログシ配管により設備との錯綜を回避することで、部材の再利用の可能性を高めている。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ の排出率を参照値より抑制している。	
Q1 室内環境 断熱等性能等級4相当とし、熱的環境に配慮している。内装建材にF☆☆☆☆を採用し室内空気環境に配慮している。	Q2 サービス性能 躯体は劣化対策等級3相当とし、耐用年数の長い設備配管材を採用するなど、建物の長寿命化に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地南側の自然林を保全、多くの緑地および中高木を設けることにより、良好な緑地環境を創出している。景観についても十分配慮した計画としている。					
LR1 エネルギー 建物の断熱等性能等級4相当とし、熱的負荷抑制に配慮している。 潜熱回収型給湯器・LED照明器具を採用し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 内装を乾式工法とし、PS・天井内・床コログシ配管により設備との錯綜を回避することで、部材の再利用の可能性を高めている。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ の排出率を参照値より抑制している。					

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される